

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区六本木 6-5-27
園名	リトルパルズ保育園六本木

1 活動のテーマ

<テーマ>

異文化交流

<テーマの設定理由>

当園は園の立地もあり「異文化」に対して興味関心が高い子どもたちが多く在籍します。開園当初より「外国のあいさつ」をテーマにした絵本の読み聞かせなどを通じて、「異文化」に親しむ環境を整えてきました。日々の保育の中で、子どもたちが「これは何ていうの?」といった素朴な疑問を自ら発する場面が増えており、このような好奇心や探究心をさらに広げていきたいと考えました。外国人の先生とのやり取りや発達に合わせたあそびを通じて、言語の感覚だけでなく「自分と他者」「文化」の違いを楽しみながら感じてほしい、臆せず表現して自己肯定感を高めてほしいと考えて、本年度のテーマを「ことば」「異文化コミュニケーション」としました。

2 活動スケジュール

年間を通して、外国人講師との交流や異文化紹介の時間などを活用し、異文化に触れて自分たちで表現することを楽しみました。単に異文化といっても漠然としてしまうため、年齢やクラスごとに具体的なテーマを取り入れ外国人講師と伝え合いを楽しみました。

【主な活動】

4～7月：世界の食べ物 8～11月：世界の動物 12～3月：世界の乗り物

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

プロジェクター、外国人講師（オンライン英語）、ウィズブックイングリッシュのプログラムサポート、図鑑、塗り絵、写真、映像など

【環境の設定】

- ・テーマごとについて調べる機会を設けました。また、子どもたち一人ひとりが意見を伝えられるよう、子ども同士のやり取りを見守りました
- ・外国人講師、とのレッスンで映像や音から学びました。また、外国人講師の言葉を子どもたちに分かりやすく伝え、子どもたちが質問をしたり、見せたいものを見せたりする気持ちを見守りながら必要に応じて声掛けをしました
- ・日々の散歩道中にも子どもたちから出てきた言葉をすくい上げ、「食べ物」「動物」「乗り物」について探求できるよう取り組みました

4 探究活動の実践

<活動の内容>

【4～7月：世界の食べ物】

4か国（ドイツ・フランス・ベルギー・イタリア）の食べ物の映像や写真を見ました。映像を見た上で、知っている食材や食べたことのある食材について外国人講師と言葉のやり取りを楽しみました。その他にも登場した国の国旗を調べたり、映像や写真に出てきた食べ物を探したりしました。

【8～11月：世界の動物】

4か国（ペルー、オーストラリア、エクアドル、南アフリカ）の動物映像や写真を見ました。映像を見た上で知っている動物や、初めて見る動物について外国人講師と簡単な言葉のやり取りを楽しみました。その他にも映像や写真に登場した動物を図鑑で調べたり、動物の動きを真似したりして体を動かしました。

【12～3月：世界の乗り物】

4か国（ボリビア、トルコ、ノルウェー、イギリス）の乗り物の映像や写真を見ました。普段見ることのない気球や二階建てバスなど図鑑を用いて調べました。また、見たことのない乗り物に関して、外国人講師に乗り方などの質問を行いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・映像を見た子どもたちは、指差しをしながら「これ知っているよ」などと声に出し反応する姿が見られました。また、映像を見るだけでなく、出てきたものに対して保育者が「知っている?」「見たことある?」などの声掛けを行い子どもたちが興味をもてるようにしました。

・外国人講師の英単語に耳を向け、一生懸命真似て発音する姿が見られました。また、英単語を真似して発音できた際には認めるなど成功体験ができる声掛けを行いました

・外国人講師の質問のなかで数字が分からない様子だったため、子どもが画面を指差し、保育者が言葉で伝えることで指さし表現へと繋げました

・学んだことに興味を持てるように”移動動物園”に参加し、その際にどこの国の動物だったのか質問をしました。子どもたちも様々な国を覚えていたようで、「オーストラリア」などの答えが出てきました

・映像を見ながら子どもたちから出た発言を保育者がピックアップし、他の子へ質問をするなどして会話を広げました

・子どもからの質問に保育者が答えるのではなく、周りの子どもたちへ質問を行い、一緒に答えを考えました



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

動物は子どもたちにとって親しみのある内容が多かったため、積極的に発言したり興味を示したりする姿が見られました。一方で、食べ物や乗り物は初めて見るものが多く、「なにこれ?」「わからない」といった言葉が聞かれ、消極的になる様子も見られました。しかし、その後の取り組みとして図鑑や写真を用いた活動を行うことで、子どもたちの「知りたい」という気持ちや、活動への期待感を高めることに繋がったのではないかと感じました。